

# 第10回 出雲市・斐川町合併協議会 会 議 録

日 時：平成23年8月24日（水）16時30分から

場 所：ラピタウエディングパレス



## 1 会議の名称等

会議名	第10回出雲市・斐川町合併協議会					
開催日時	平成23年8月24日(水) 16時30分～17時14分					
開催場所	ラピタウエディングパレス 天雅の間					
出席状況	委員総数	16名	出席委員数	15名	会議の成否	成
会議録署名委員	井上 恵夫 委員(斐川町)			渡部 美知子 委員(出雲市)		

## 2 会議の出席者

### (1) 委員等

所属	出雲市	斐川町
市長・町長	◎ 長岡 秀人	○ 勝部 勝明
議長	(欠席)	多々納 弘
議員	寺田 昌弘	井上 恵夫
	福代 秀洋	坪田 揚子
学識経験者	萬代 宣雄	周藤 昌夫
	江田 小鷹	岡 正明
	武田 睦弘	須田 日出男
	松浦 剛司	昌子 好見
	渡部 美知子	下手 泰子

◎ 会長、○ 副会長

※欠席：宮本 享 委員(出雲市)

所属	氏名	職名
出雲市	勝部 一郎	監査委員
斐川町	小村 克利	監査委員

### (2) 幹事会等

所属	氏名	職名
出雲市	◎ 黒目 俊策	副市長
	河内 幸男	副市長
	伊藤 功	総合政策部長
斐川町	○ 高田 茂明	副町長
	持田 幹男	参事

◎ 幹事長、○ 副幹事長

所 属	氏 名	職 名
出 雲 市	中 尾 一 彦	教 育 長
斐 川 町	青 木 充 之	教 育 長

(3) 事務局職員

役 職	氏 名	所 属	備 考
事 務 局 長	浅 津 彰 敏	出 雲 市	総 括
参 与	奈 良 井 浩 人	島 根 県	専 門 的 助 言 ・ 調 整
事 務 局 次 長	今 岡 範 夫	出 雲 市	(調 整 1 班 班 長 兼 務) 総 務 ・ 企 画 ・ 財 政 ・ 議 会 ・ 消 防 関 係
	建 部 敏 紀	斐 川 町	(調 整 2 班 班 長 兼 務) 住 民 ・ 福 祉 ・ 教 育 ・ 文 化 ・ 産 業 ・ 建 設 ・ 上 下 水 道 関 係
総 務 班 班 長	三 浦 俊 明	出 雲 市	基 本 計 画 ・ 財 政 計 画 ・ 会 議 運 営 ・ 庶 務 ・ 広 報
調 整 1 班 班 員	周 藤 学	斐 川 町	
調 整 2 班 班 員	園 山 博 之	出 雲 市	

### 3 議 題

開 会

- 1 会 長 あ い さ つ
- 2 会 議 録 署 名 委 員 の 指 名 に つ い て
- 3 議 事
  - 報 告 事 項
    - 報 告 第 1 4 号 出 雲 市 ・ 斐 川 町 合 併 協 議 会 の 廃 止 に つ い て
    - 報 告 第 1 5 号 出 雲 市 ・ 斐 川 町 合 併 関 連 行 事 に つ い て

4 そ の 他

閉 会

## 4 議事の要旨

別添資料及び次のとおり。

### 開 会

[奈良井参与] (司会・進行)

ご案内の時間がまいりましたので、ただいまから第10回出雲市・斐川町合併協議会を開会いたします。

私は、本日の進行役を務めさせていただきます、事務局の奈良井と申します。よろしくお願いいたします。

はじめに、会議資料の確認をいただきたいと思います。本日の会議は、お手元の「第10回出雲市・斐川町合併協議会 会議資料」により進めさせていただきます。

本日、出雲市の宮本議長さまから欠席の連絡をいただいております。従いまして、本日の会議は、委員16名中15名のご出席でございますので、出雲市・斐川町合併協議会規約第10条第1項の規定により、会議が成立しておりますことを報告いたします。

ここで、長岡会長からあいさつを受けたいと思います。

### 1 会長あいさつ

[長岡会長]

今日は第10回目、最後の協議会でございます。お忙しい中をおでかけいただきまして、ありがとうございます。今日から数えまして38日後には、いよいよ合併ということでございます。私ども、町長さんをはじめ斐川町のみなさんと最終の合併準備の作業を詰めている最中でございます。10月1日には円滑に移行できるように、また様々な支障が無いように万全を期してまいりたいと向かっているところでございます。

今回の合併、互譲の精神でということで、協議の中で様々な意見を交換しながら進めてまいりました。ぜひ、合併後の新しい出雲市が、みなさんにとって、町民のみなさんにも市民のみなさんにとっても素晴らしい市の誕生になるよう、委員のみなさま方のご協力、ご理解をあらためてお願い申しあげまして開会にあたってのあいさつとさせていただきます。どうぞ、よろしくお願い申しあげます。

[奈良井参与]

ありがとうございました。

ここからの進行は長岡会長お願い致します。

### 2 会議録署名委員の指名について

[長岡議長]

それでは、会議録署名委員につきまして、私から指名させていただきます。会議資料4ページをお開きください。第1回の協議会で承認いただきました会議録署名委員の指名についての取り決めによりまして、本日は、斐川町議会議員 井上恵夫委員と出雲市学識経験委員 渡部美知子委員のお二人をお願いしたいと思います。

### 3 議事

#### ○ 報告事項

報告第14号 出雲市・斐川町合併協議会の廃止について

報告第15号 出雲市・斐川町合併関連行事について

[長岡議長]

ただいまから議事に入ります。

本日は、報告事項が2件のみでございます。最初に、報告第14号 出雲市・斐川町合併協議会の廃止について、事務局から説明願います。

[三浦班長]

～報告第14号について説明～

[長岡議長]

報告第14号について、何かご質問ございますか。

～質疑無し～

[長岡議長]

無いようでございます。

次の報告第15号 出雲市・斐川町合併関連行事について、事務局から説明願います。

[三浦班長]

～報告第15号について説明～

[長岡議長]

報告第15号 合併関連行事についての説明がありましたが、このことについて何かご質問ございますか。

～質疑無し～

[長岡議長]

ありませんか。それでは、以上で議事を終わらせていただきます。

### 4 その他

[長岡議長]

それでは、次第の4、その他ということで、今日は、最後の合併協議会ということでございますので、委員のみなさまから、合併に向けて期待すること、合併後のまちづくりについてなど、それぞれ一言ずつ、お言葉をいただきたいと思います。感想や期待も含めてよろしくお願いします。

[寺田委員]

2市5町の合併ということが、確か平成12年から始まったと思います。その後、いろいろあって、みなさんご案内の通りでございますが、こうして立派に来る10月1日に合併式典を迎えるということは、本当に嬉しいことでございます。やはり、出雲は、旧2市5町、出雲圏域、こうした出雲民族の中心的なところでございまして、これから大いに出雲市として、島根県の中核都市になるように、立派な出雲市が誕生しなければいけないと思っているところでございます。みなさん長い間、ご苦労さまでございました。

[井上委員]

先ほど話がありましたように、平成12年に私は出雲市の議員さんと一緒に、この合併問題の勉強会をさせていただいて、今日の合併に来たわけですが、平成15年には議会においても2市5町合併が産声をあげましたと、一同に集まって万歳したところがございますが、残念ながら今日までのびのびになって、今回、出雲市のみなさん方と一緒にさせていただけることは大変私たちには思いがございますし、斐川町のこれからの将来にも大きな飛躍だと思えます。

かえりまして、30年の合併におきましては中学校区制度との関連での合併でございましたし、今回は世界の経済状況、そしてグローバルな社会構造等考えた時に、合併は大きな意義があると思えますし、斐川と出雲とは合併を機に大きく飛躍する市町村になっていきたいと思っておりますので、そういう思いを込めて私も今まで頑張らせていただいて、本当に感慨深いものがあります。

[福代委員]

もうあと1か月あまりで合併ということでございまして、みなさんお疲れ様でした。ただ、1か月後にはきちんとしたスタートができるように、まだまだやらなければいけないことがあると思えます。その点は、十分、執行部の方は頑張ってくださいたいと思えます。また、合併というのは夢も希望もあるような時代ではないですので、現実が直ぐ目の前にあると思っております。そのためには、やはり合併の短期的な効果であります行政の高効率化と言いますか、スリム化といったことを含めて早急に取り組んでいただきたいと思えますし、市の執行部のみなさんにおかれましては、互いに切磋琢磨して、よりスキルの高い行政体を作りあげていただきたい、それを早い段階で作りあげていただきたいというのが今の希望でございます。どうかよろしく願います。

[坪田委員]

私は本当に合併して良かった、やっとこの日を迎えられたという思いであります。協議会には前回初めてで、今回で終わりになるのですけれども、ひじょうに合併には期待をしております。こういう世の中ですから、なかなか難しいと思えますが、お金をかけないでやれることはあると思えます。例えば、今度一般質問でもしようと思っておりますが、交通体系、出雲市と斐川町ということでなくて、全体に見直していただいて、やはり人の交流があるところに活力が生まれると思えますから、そういうところも期待しております。そして集中と分散ということを訴えておりますが、統合することのメリットもありますが、これからは各地域で我々自身が立ち上げていく、自立したまちづくりということで、分散ということも視野に入れてやっていくことが必要だと思っております。そういう意味で、ますます出雲地域が発展していくことを期待しております。最後に、参加させていただき、ひじょうに喜んでおります。みなさん、最後までよろしく願います。

[萬代委員]

私も、このことについては、農業関係の学識経験者という以前から、議会の関係で実は関わっております、本当に今日までの道のりが正直言って長かったなという思いです。しかし、良識あるみなさん方のおかげで今日を迎えるということは本当に感慨深いと感じております。要はこれからどう新しい市をつくっていくのか、どう市民のみなさん方、町民のみなさん方が合併して良かったと言われるようなまちづくりをするのかということだと思っております。

そういう意味では、実は斐川町の個人的に親しいみなさん方が、大反対をされた方も多く存じあげていたところですが、そうしたみなさん方が、ここに来て逆に向こうの方から声をかけていただきまして、今までいろいろなことがあったが、これからやろうと、向こうから言ってもらって、ありがたいなと思っております。そういう中で、寺田元議長も一緒に、いろいろお世話になっているところですが、斐川の方から議員のOB会をやろうという呼びかけがありまして、それは良い事だと言ったわけですが、考えてみると議員のOB会となるとかなりの人数になりますから、そこまでは大変ではないかと、議長の経験者でもって1回やろうということで、先だってOB会が開催されました。これからの新しい出雲市を我々もいろいろな面で確認しながら良い方向にもっていかないといけないということも含めて、継続的にこのOB会をやろうと言っていたりして、まだ発足はしてお

りませんが、ある意味で自然にそういう交流が始まっている、ありがたいことだと思っております。

どうか、第一に親しく、今までの事は今までの事、水に流して、新しい出雲をどうするかという観点で頑張るとのことだと思っております。これから新しい議員さんも斐川で生まれてきます。そういう中でさらに頑張ってくださいよう期待しております。市長さんはじめ町長さん、議会のみなさん方、事務局のみなさん方、心からお疲れ様ということを申しあげたいような思いです。本当にご苦労さまでございました。

[周藤委員]

私も農業関係の学識ということで出席させていただきました、本当に、いろいろな場面で話をさせていただいたり、ご理解をいただきまして、大変ありがとうございました。いろいろな内容がございましたが、良い協定をさせていただいたと思っております、いよいよ合併でございます、感慨深いものを持っております。

いよいよ新市になりますと、私どもも新しい出雲市の農業振興の一角を担わせていただくということでございまして、いっそう地区の農業振興、また全市における農業振興に努力したいと思っておりますので、この上ながらよろしくお願い申し上げます。

[江田委員]

これからは、いよいよ合併ということで、これからがスタートということで、いろいろありますが、とにかくみんなで、ひた向きに、前向きの努力をこれからもしていきたい、みんなで頑張っていきましょう。希望のある、未来のあるまちをつかっていきたい、みんなでそういうまちづくりをこれから始めていきたいと思っております。

[岡委員]

商工会関係ということでこの会に出させていただきますが、商工会に関しては、1行だけ、経済団体は1つが望ましいとだけしかありません、なかなか発言の場もありませんでしたが、斐川の商工会としては、最初の大合併の時から、経済的にはやはり合併すべきだとしておりましたが、やっとここへ来てその思いがかなったというように思っております。ただ、出雲商工会、大社に本所がありますが、斐川の商工会とこれからどうするのか、合併が終わってから、ゆっくりと時間をかけて相談したい、その節は、市長さん、よろしく願います。どういう結果になるのか、商工会議所も二つあるわけですし、会員のみなさん方がどのようにお考えになるのか、意見の調整をしながら進んでまいりたいと思っております。

ただ、この合併が斐川町も一緒になって出雲市になるわけですが、斐川地区が取り残されることの無いように、私どもも頑張っていきたいと思っております。行政の方も、目配り気配りをお願いしたいと思います。新しい出雲市が他者に誇れる市になることを期待しております。

[武田委員]

長かったなという感想でございます。10年を超えております。本当に良かったと、私も斐川の生まれだと協議会の場で言ったことがございますが、本当に心から喜んでいる一人でございます。ワーキンググループのみなさん方、ほんとうに、お疲れ様でございました。長い間お世話になりました。

今回、2市5町、出雲圏域が一本になりましたので、斐川町が入られたから斐川町が特別ということではないと思っております。各地区みんな同じ立場だと思っておりますので、これからは2市5町共に切磋琢磨をして、お互い同士良きライバルで、ある意味で競争心を燃やして、それぞれの地区がそれぞれ特区を形成するというような、そういう意気込みでこれから取り組んでいかなければ、出雲市はもたないのではないかという思いでいっぱいです。ぜひ、今まで農業と言えば斐川町という感じでしたが、農業に限らず、林業でも水産業でも工業でも商業でも、どういう形であれ、県下どころか中国地方どころか全国に特区として認められるような、そういう勢いのある地区をどこが最初に作るか、これからの競争だというふうに思っております。今までの2市4町もぼやぼやしておれないという思いです。そうしないと市長が唱えておられる五つ星の出雲市の実現は難しいのではないかと思います。これからは住民パワーでございますので、産官学共同で、ぜひ、そういう発想を起こして頑張ってい

きたい、もちろん、それぞれ出雲も斐川も平田も大社も佐田も多伎も湖陵もという感じで、どこともが競争でこれからはやっていく、それが波及効果を及ぼしてくると考えておりますので、みなさん、これから頑張ろうじゃありませんか。よろしくをお願いします。

[須田委員]

私は斐川町の町民の代表で出させてもらったのですが、合併ということに関しては、ここにおられる方の中で、一番遅れて参加したのではないかなと思います。それで、協議会において市長さんがよくおっしゃった互譲の精神ということで、いろいろなことがうまく合意が形成されて、ありがたかったと思います。斐川町にとっても、素人の私の目から見ても、譲ってもらったことがいっぱいあった気がして、うまく合意できたと思います。

いよいよ10月1日から新市になるわけですが、私も一市民になるわけですが、これからは互譲の精神というよりも、同じ土俵ですので、融和の精神で、私、念仏のように唱えていましたが、良い合併に向けて、あらゆることを議論して、あらゆることの合意を進める努力を進めていけたら良いなと一市民として考えています。

[松浦委員]

みなさま、第10回まで、本当に長い間お疲れさまでした。私が思うに合併というのは、未来を見据えたというところが一番に考えられて、合併に至ったのではないかと思います。20年後、30年後に振り返った時に、あの時の先人たちが、ここで合併した事はさすがだったと言われるようなまちづくりにしてほしいなと思いますし、私も幼子を持つ世代の人間として、子どもたちがこの出雲市に生まれて本当に良かったと思えるような出雲市にしていきたいと心から願うところです。本当にお疲れさまでした。

[昌子委員]

私も第1回から合併の委員として参加させていただいて、本当に、今まで経験したことのないようなことを勉強させていただいた感がしております。中でも学識経験者ということで、私は主として農業関係で、言いにくい事を言わせていただいた気がしますし、その中で、出雲市の委員さんがたいへん協力的にご理解いただいて、斐川の農業関係の事に、本当に、我々も感謝の一言に尽きるような決定をしていただいて、これから、私も新しい出雲市の一員として、一緒にさせていただきますが、これから和気あいあいと、出雲市の新しい発展のために、微力ながら努力させていただきたいと思っています。

[渡部委員]

紆余曲折あったと思いますが、元々は歴史や文化を共有する地域ですので、合併に向けて流れてきたこの流れというのは、ごく自然のものであったような気がします。先日、広報と一緒にごみの分別のガイドブックが配られてきまして、それを手にしながら、斐川という名前がいろいろなところに登場していることに違和感も無く、私としては、こういう機会に携わらせていただいたということもあって、しみじみとガイドブックを表紙から裏表紙まで1枚1枚見て感慨にふけりました。

将来に向けては、やはりお互いに心を寄せ合って、前を向くことに尽きると思います。今は私たちの世代が頑張りますが、やがては将来を託していく子供たちが新市に誇りをもって成長してほしいと願うばかりです。

[下手委員]

長い間、斐川町は町を2分しておまして、中学生や高校生も賛成だとか反対だとかという感じでした。それが、このようにまとまりましたのは、市長さん、町長さん、議長さんはじめ議員のみなさま、委員のみなさま、行政のみなさまのおかげだと思っております。賛成の方も反対の方も、本当にご苦労があったらうなと思っておりますが、産みの苦しみが大きかった分は、素晴らしい出雲市が生まれるのではないかと大変に期待しております。貴重な経験を1年以上させていただきましたこと、みなさに厚くお礼申しあげます。

[多々納委員]

最初に、長岡会長はじめ合併協の委員のみなさま方、事務局のみなさま方に厚くお礼申し上げたいと思います。

合併まで40日をきったわけですが、正直言って、まだ合併の実感というものがわきません。今まで、こういう機会が幾たびかあっておりますけれども、成就しなかったということがあるのかどうなのか、まだ合併が本当にできるのだろうか、何か実感がわからない今日この頃でございます。

本当に立派な合併協定も作っていただきまして、互譲の精神、対等の立場そのものだと思っておりますが、しかしながら、立派な合併協定ではございますが、これはあくまでも計画でございまして、10月1日から本番の実施でございますので、私どもは、その事を今後検証していかなければならない。この立派な合併協定が本当に実施されるよう、実行されるように、それが合併協の委員としての一つの務めであると思っております。今後ともみなさん方と力を合わせ、せつかくの長年の念願がかなった出雲・斐川の合併でございますので、斐川町民も合併して良かったという実感がわくような、そういう合併の効果を出していただきたい、ここ1・2年が一番大事でございますので、よろしくお願い申し上げまして、お礼とお願いとさせていただきます。

[長岡議長]

監査委員としてご参加いただいたお二人にも一言ずついただきたいと思っております。

[勝部監査委員]

合併ということが目の前に来まして、本当に良かったと思っております。私も斐川町の第三セクの会長に身を置いていたこともありまして、出雲市と斐川町の合併には特に関心を持って眺めていたわけですが、長い間、紆余曲折もあって、やっとここまで来て本当に良かったなという思いでいっぱいでございます。

ただ、合併というのは、ご承知のように行政の効率化、財務状況の改善ということが、一番の目的ではないかと思っております。失礼な言い方ではありますが、出雲市も斐川町も、全国的にはもちろん島根県におきましても必ずしも財務的には良いとは言えない状況でございます。そういう出雲市と斐川町が合併するわけですから、合併した当初は厳しいものが残ると思っております。合併してから、ああいうはずでは無かった、こういうはずでは無かったということがあるかもしれませんが、合併の目的はここにありということを見なさんが心にすえていただいて、腹にすえていただいて、互いに難しい面があらうかと思っておりますが、知恵を出し合って、協力し合って、譲り合うところは譲って、とにかく合併して良かったということにならなければいけないと思っております。互いにいろいろ辛抱がいるのではないかと思いますので、合併して良かった良かっただけでなく、いろいろ辛いこと、厳しい面が多々出てくると思いますが、その辺は、合併の目的をしっかりと腹にすえて、互いに協力し合って立派な新・出雲市にさせていただきたいと思っております。まさに、合併が1+1が2ではなくて、3でも4でも5でもなるように、みなさんで協力し合っていていただいて立派な出雲市となることを祈念しております。

[小村監査委員]

行財政につきましては、先ほど勝部監査委員からお話がございましたので、私は感想ということで申し上げてみたいと思っております。二つの思いがしております、一つはいよいよ終わるのかなという斐川町の感想として持ちますし、一つはいよいよ始まるなという強い思いもしているところでございます。新市が誕生するわけですが、合併の一番の目的というのは、この出雲圏域、あるいは山陰地方の民力がいかに向上していくかということが大きな目的であらうかと思っております。その一つのデータとして、最近叫ばれておりますのが人口の減少ということがございます。斐川町も既に人口の自然減が始まっております、いささか斐川地域のそういう人口減少を少し心配しているものでございますが、やはり民力が向上していくということは、その地域に住む人、暮らす人が赤ちゃんを産み育てていくことが一番大切だと思いますので、合併したあかつきには、どうか人口問題、難しい問題ではございますが、取り組んでいただいて、この圏域が立派に発展していったらなと思っております。そういった意味合いからいけば、大変裾野の広い、エリアの広い話かと思っておりますが、一番大事なのは教育ではないかと思っております。そちらの方へもぜひ力を入れていただいて、財政事情いろいろ

ろあるかと思いますが、ご苦心をいただいて、明日の斐川地域の発展にご尽力いただけたらと思っております。

## 閉 会

[長岡議長]

それではここで、副会長の勝部町長さんから発言をいただきたいと思っております。

[勝部副会長]

これまで、私、合併を進めてまいりました。つぶやき3年と言いましょいか、3年どころではなくて4年と数か月になりましょいか、合併ということをつぶやいてきたところでございます。なぜ合併なのか、一つは何としても地方分権、これは今後、更に進んでいくのではないのか、行政はやはり大きな形になっていかないとそれに対応できないではないかということが1点ございます。そして先ほどからも出ておりますように少子高齢化、これはものすごい勢いで加速していく、進んでいくものと思っております。それともう一つは行政の効率化、人口が減ってくる中であって、そういう時に、行政というのは効率性を良くしていかないと、どうしても対応できないところが出てくるという、この3点で合併ということをつぶやいてきたところでございます。

つぶやき3年というのは、自分が言い出すと周りの人がそうだと、またその隣の人が合併だとおっしゃる、この輪をどう広げていくのかということではなかったかと感じがしております。そうした中で、いろいろ紆余曲折があったところですが、町民のみなさん、出雲市民のみなさんにも大変なご協力をいただきまして、昨年5月1日に、この合併協議会が設置されまして、58項目の基本的な内容を協議決定いただき、最近ではその基本項目に基づきまして1,250項目という事務事業、自治体と自治体が一緒になるわけでございますから、協議会の委員のみなさま、スタッフのみなさま、大変なご協力を得て、それが進んできたところでございます。

私はそういう多くのみなさん方の思いが詰まった項目、これに基づいて新しく出来あがってくる出雲市というのは、本当に素晴らしい、縄文弥生の時代に出雲の國であったわけですから、縄文弥生の時代というのは、日本の中央の方に大変優れた国もあったようですが、それと同等以上に出雲の國というのは発展をしていたと思っておりますが、そうした出雲の國、県の中央地帯における一大拠点都市に発展していくものと思っております。

協議会委員のみなさま方に大変な知恵をいただき、ご協力をいただいたその結果は必ず今後現れてくると思っております。ありがとうございました。

[長岡会長]

ありがとうございました。

冒頭申しあげましたように、あと38日で新しい出雲市が誕生いたします。

先ほど委員のみなさま方からありましたように、この地域、合併して良かったと言えるような、そういう新しいまちをめざしていきたいと思っております。

人口が17万5千人、面積が624km<sup>2</sup>、東京23区とほぼ同じ面積、シンガポールに近い面積の都市になるわけですが、何と言っても工業出荷額が県内全体の4割を占める、農業生産額も4分の1を占める、そういう産業都市であり、また一方では医療、福祉、いろいろな分野で誇れるような、そういう素晴らしいまちをこれから一緒に作っていききたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年の5月以来、10回に及ぶこの協議会、ご協力いただきました委員のみなさま方に、心から感謝を申しあげ、お礼のあいさつとさせていただきます。本当に長い間お世話になりました。ありがとうございました。

以 上

会 議 録 署 名 人

委 員

井上 惠夫

委 員

渡部 美知子